

復興の歩み

いつなくみんなの想い

東日本大震災
復興フォト&スケッチ展 2016
作品集

—— 街に、ルネッサンス ——



UR

UR都市機構



一日も早い東北の復興へ
全力で取り組んでいます

復興の歩み ～つなぐ みんなの想い～

ごあいさつ

東日本大震災からまもなく6 年を迎えようとしています。

U R 都市機構は、発災直後から被災地へ職員を派遣し、復旧・復興活動に取り組んでまいりました。

このフォト& スケッチ展は、これまでの復興への歩みを広く発信することで、

全国の皆様に被災地の様子を知っていただくとともに、

被災された方々にとって希望を感じられる場になればという思いで始まり、今回で3 回目の開催となりました。

今回のテーマ「復興の歩み～ つなぐ みんなの想い～」のとおり、

皆様の想いが込められた作品を全国から多数お寄せいただきました。

当フォト&スケッチ展がその想いを少しでも多くの方々につなぐことができれば幸いです。

各地で復興事業は本格化し、各地区で駅や商業施設等の開業、高台住宅地の完成、

災害公営住宅の入居が始まり、「住まいとまちの復興」が着実に進捗しています。応募作品からも、

復興に向けて着実に歩みを進める人々やまちの様子を感じることができるかと思います。

多くの皆様からの作品応募に、心からお礼申し上げます。

目次

UR都市機構の復興支援 04

フォト&スケッチ展概要 06

審査員プロフィール 08

受賞作品・応募作品の紹介 10

●復興の歩み大賞 フォト 12

●復興の歩み大賞 スケッチ 14

●復興の歩み賞
(大西 みつぐ・千葉 学・なかだ えり・池邊 このみ・UR都市機構 選) 16

●入賞 26

●応募作品 34

審査の風景 38

- 受賞者および有識者審査員の敬称は省略させていただいております。
- 受賞作品の紹介内容は原則下記の順に掲載しております。
作品タイトル／氏名／撮影・スケッチの対象場所（県、市町村）／メッセージ
- 応募作品はトリミング加工の上、掲載しております。

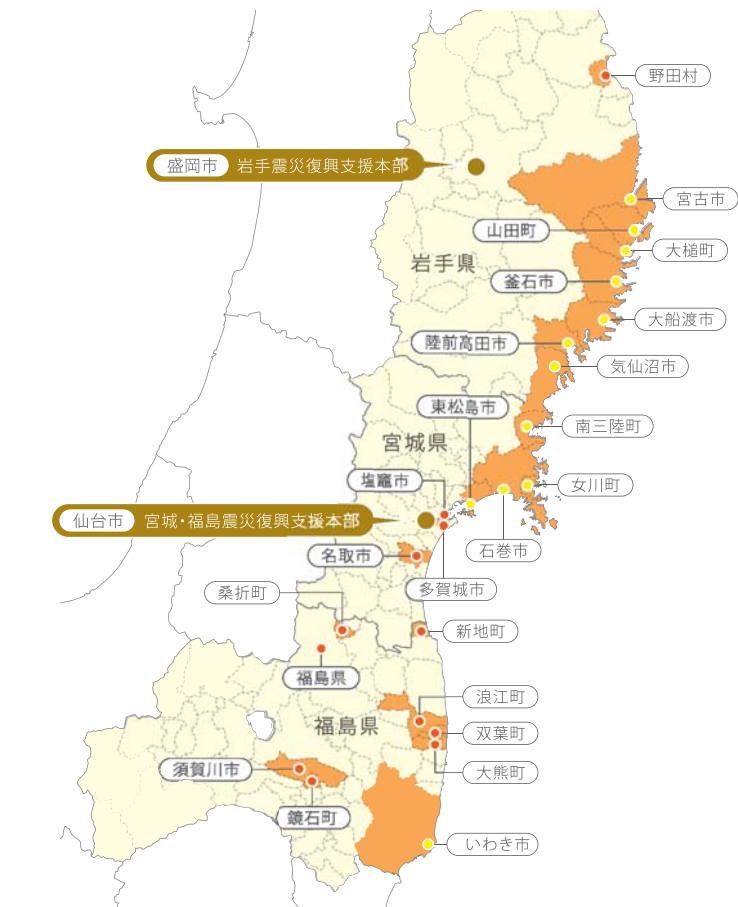
UR都市機構の復興支援

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は未曾有の被害をもたらしました。

UR都市機構はUR賃貸住宅や応急仮設住宅建設用地の提供、応急仮設住宅建設のための職員派遣など震災当初から支援を開始。

続いて、被災自治体における復興計画策定支援等のため職員派遣を行いました。

現在では、24の被災自治体と協定等を締結し、現地体制を強化して復興まちづくりの支援を行っています。



- 《震災復興支援本部》 事業の統括、設計、工事発注、契約手続きを行います。
- 《復興支援事務所(12箇所)を設置する自治体》 現地に事務所を設置し、市街地整備、住宅整備を推進します。
- 《復興まちづくりを支援する自治体》 主に震災復興支援本部を拠点に、市街地整備、住宅整備、事業コーディネート、人的支援等を行います。

復興支援MAP

UR都市機構は、岩手・宮城・福島の計24の自治体で復興支援に取り組んでいます。

岩手県上閉伊郡大槌町
末広町町営住宅



岩手県釜石市
鵜住居復興住宅



宮城県石巻市
市営門脇東復興住宅



宮城県東松島市
野蒜北部丘陵地区



岩手県大船渡市
野々田アパート



宮城県陸前高田市
高田地区



宮城県本吉郡南三陸町
町営志津川東復興住宅



福島県いわき市
宮沢団地



復興まちづくり支援の歩み

東日本大震災発生

平成23年4月 岩手県下への 派遣開始	平成23年7月 宮城県下への 派遣開始	平成23年11月 福島県下への 派遣開始	平成24年4月 現地に 専任チームを配置	平成26年4月 仙台・盛岡に 震災復興支援本部を設置	平成28年4月 事業進捗状況にあわせて 体制を整備
URの現地支援体制 17人	37人	59人	172人	400人	446人
					
いわきニュータウンに建設された 応急仮設住宅	福島県浪江町と覚書を交換 (平成28年11月)	住民説明会を延べ6,600名に実施 (宮城県女川町)			大量土の搬出のため設置された ベルトコンベヤー〔平成27年9月作業完了〕 (岩手県陸前高田市)

- **復旧支援**
UR賃貸住宅延べ970戸の提供。
応急仮設住宅建設用地等約8haを提供。
延べ184名の技術職員を派遣。
 - **協定締結**
24の被災自治体との間で、
復興まちづくりを推進する
ための覚書・協定等を締結。
 - **事業計画策定**
住民説明会や個別面談を通じて、
住民の方々の意向を確認し、
個別地区の事業計画を作成。
 - **工事を加速し、
一つ一つ着実に事業を完成**
平成27年度末までに、受託した
22地区すべての土地引渡しを開始。
災害公営住宅は、平成29年1月まで
4,062戸が完成。
 - **復興計画策定支援等**
1県18市町村に延べ61名の技術職員を派遣。
復興計画づくり等技術面からサポート
 - **体制づくり**
沿岸部の12市町に現地事務所を設置。

復興市街地整備事業

土地区画整理事業、防災集団移転促進事業などにより、被災した市街地の嵩上げや高台新市街地の整備を行います。

UR都市機構は被災自治体より委託を受け、計画策定から工事発注・監理までフルパッケージで事業を進めています。

災害公営住宅整備事業

被災により住まいを失われた方、原子力災害により避難を余儀なくされている方のための公営住宅を整備します。UR都市機構は被災自治体からの要請により住宅を建設、完成後に自治体へ譲渡します。

復興まちづくりコーディネート業務の実施

被災自治体からの委託により、UR都市機構はまちづくりの実績や技術力を活かし、復興まちづくり事業計画策定業務、工事発注支援業務等を実施しています。



重ダンプによる造成工事
(宮城県東松島市)



シーパルピア女川を縦断する
プロムナードからJR女川駅を望む
(宮城県女川町)



市営内の脇住宅
(宮城県気仙沼市)



山口西アパート
(岩手県大船渡市)

フォト＆スケッチ展 概要

開催概要について

東日本大震災復興フォト＆スケッチ展2016は、復興への歩みを広く発信することで被災地の復興を支援するため、「つなぐ みんなの想い」をテーマとして開催しました。

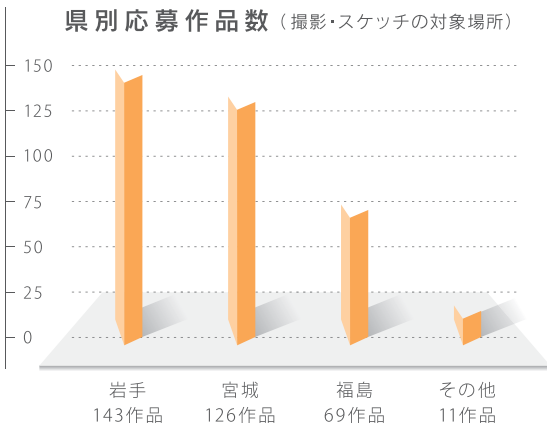
応募作品は、復興を感じる場面を題材とした写真、またはスケッチとし、皆様の被災地や復興に対する想いを、タイトルとメッセージで表現していただきました。応募資格は、できる限り多くの方々に参加していただくため、被災地にお住まいの方だけではなく、被災地を訪問された方やゆかりのある方等すべての方を対象としました（プロの写真家や画家の方を除く）。

約5ヵ月の募集期間を経て、131名の皆様から、349作品（フォト326作品／スケッチ23作品）のご応募をいただきました。

その中から、4名の有識者審査員（以下、審査員）による審査とUR職員投票により、復興の歩み大賞2作品（フォト・スケッチ各1作品。審査員による協議により選定）、復興の歩み賞5作品（各審査員1作品。UR職員投票による最多得票1作品）、入賞15作品（UR職員投票による上位作品）を選出しました。なお、審査過程では作品の応募者名を無記名とし、写真やスケッチの内容に加え、タイトルとメッセージを含めた総合的な評価をさせていただきました。

スケジュール

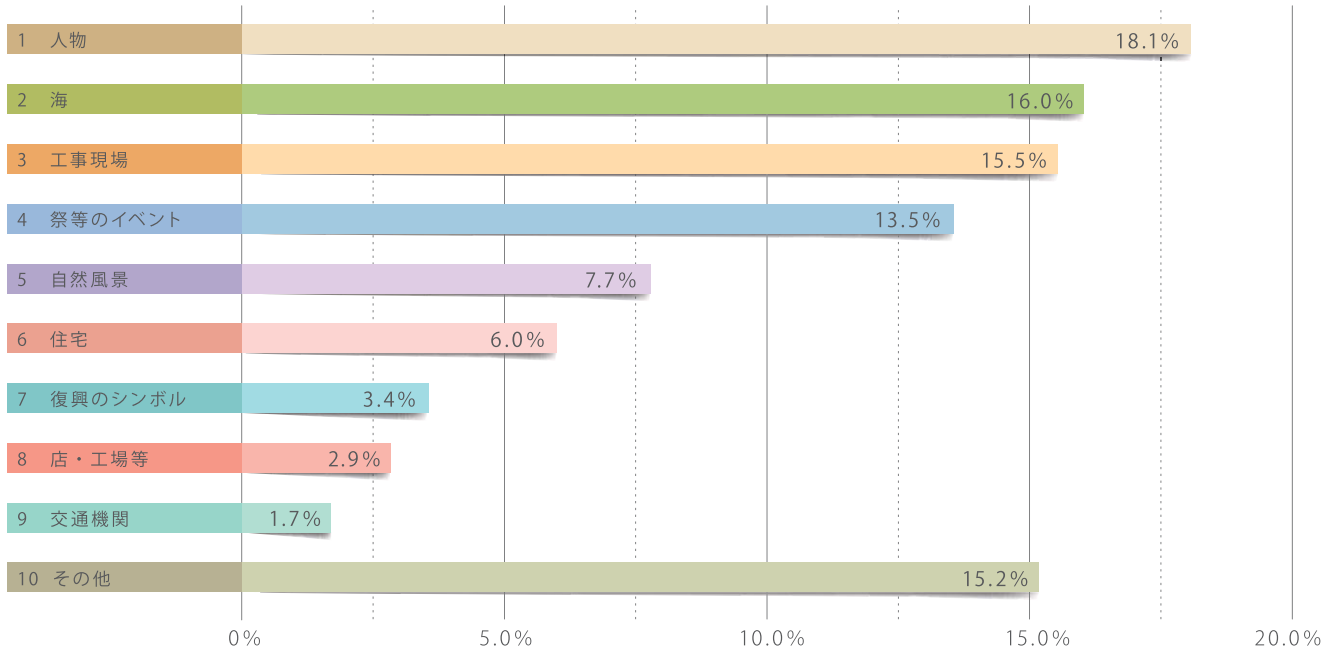
2016年1月29日	開催予告
2016年3月10日	開催発表
2016年3月10日～8月31日	作品募集期間
2016年9月～11月	応募作品の審査〔UR職員投票審査→有識者審査〕
2016年12月1日	審査結果の発表



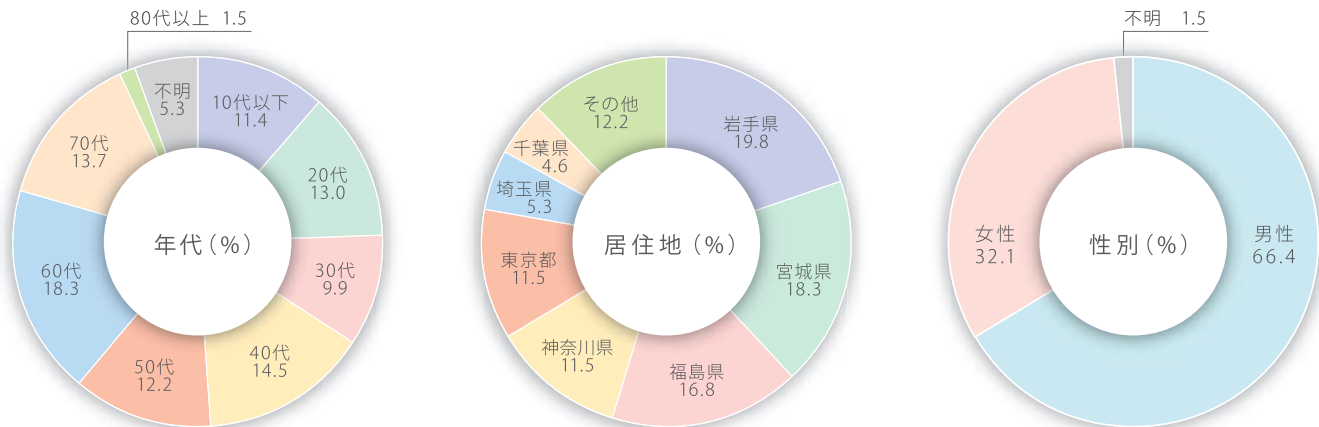
撮影・スケッチの対象として多く選ばれた場所

所在地	作品数	所在地	作品数
岩手県陸前高田市	35 作品	岩手県大船渡市	23 作品
岩手県宮古市	30 作品	宮城県本吉郡南三陸町	23 作品
福島県いわき市	27 作品	岩手県上閉伊郡大槌町	18 作品
宮城県石巻市	25 作品	宮城県牡鹿郡女川町	17 作品
宮城県気仙沼市	24 作品	岩手県下閉伊郡山田町	15 作品

応募作品の分類



応募者の属性



審査員プロフィール



大西 みつぐ氏
写真家

東京総合写真専門学校卒業。1985 年「河口の町」で第22 回太陽賞、1993 年「遠い夏」ほかにより第18 回木村伊兵衛写真賞受賞、江戸川区文化奨励賞受賞。1970 年代から東京の下町を拠点として撮影活動が続けるほか、大学や専門学校などで若い世代を指導、また各カメラ雑誌において記事執筆、月例コンテスト審査員を歴任するなど写真愛好家へのアドバイスも積極的に行なっている。
日本写真協会、日本写真家協会会員、ニッコールクラブ顧問、大阪芸術大学客員教授。

総評

非常に内容が充実していました。復興中の工事現場の風景があったり、悲しみを象徴するような建物やモニュメントがあったり、お祭りがあったり、応募された皆様の目線で時の経過をきちっと伝えていこうという視点がはっきりしてきました。写真を上手く写そうとか、構図をしっかりとしようとか、美しい色彩を表現しようというような技巧に走ることなく、素朴に、ストレートに応募された皆様の現在を記憶して行くことが、この復興の歩みの記録として、しっかり息づいていくことだと思いました。

Mitsugu OHNISHI Photographer



千葉 学氏
建築家

1985年東京大学工学部建築学科卒業、1987年同大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了、株式会社日本設計、ファクターエヌ共同主宰を経て、2001年千葉学建築計画事務所設立。2009年-2010年スイス連邦工科大学客員教授、現在、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授。 主な受賞に第27回村野藤吾賞（工学院大学125 周年記念総合教育棟）、ユネスコ・アジア太平洋遺産賞功績賞（大多喜町役場）、2009年日本建築学会賞（作品）（日本盲導犬総合センター）など。

震災から5年も経つと、被災地の方たちにとって極めて特異な状況だった造成や工事の風景が、日常の風景になっています。その中でも、次に向かう気づきを積み重ねて行こうとしていたように感じられました。逆に、まちが復興され、被災地の風景が見えなくなってきている中で被災地の状況に、もう一度目を向けられるような作品も多くあって、震災から5年が経ったということが象徴されていたのではないかと感じました。

Manabu CHIBA Architect



なかだ えり氏
イラストレーター

日本大学生産工学部建築工学科卒、法政大学工学部建築学科修士課程修了。フリーランスでイラスト、執筆、建築設計など多分野で活動。東京・千住の元スナックをリノベーションした建物をアトリエとし、地域の古い建物を活用する活動に参加。著書に「大人女子よくばり週末旅手帖」（エクスナレッジ／2015年）、「駅弁女子〜日本全国旅して食べて」（淡交社／2013年）、「奇跡の一本松〜大津波をのりこえて」（汐文社／2011年）など。「奇跡の一本松」は平成27 ～ 30 年度の小学校の道徳の教科書に掲載。

復興の作品について、以前はインパクトの強い大漁旗とか、被災した船などが多かったと思いますが、震災から5年が過ぎて、日常を取り戻そうとした何気ない風景に被写体が変わってきています。年月が経ち、被災した方も、被災地を訪れた方も含めて、少しずつ自然体に戻ろうとしている前向きな光のようなものが感じられました。また、「忘れてはいけない」という被災地からのメッセージがあると思いますが、応募者の方からも“伝えたい”という心意気を感じられて非常に良かったです。

Eri NAKADA Illustrator



池邊 このみ氏
ランドスケーププランナー

千葉大学大学院教授、専門は造園デザイン学。千葉大学大学院博士課程修了、住信基礎研究所、ニッセイ基礎研究所等をへて、現職。2007年より3 か年、UR 都市機構の都市デザインチームリーダーを兼務。学術会議連携会員、国土交通省社会資本整備審議会委員、文化庁名勝部門審議委員、国土交通省景観賞審査委員、陸前高田市文化財保全活用調査委員長、高田の松原復興祈念公園構想会議委員、都市景観大賞審査委員、都市公園コンクール審査委員等を務める。

震災から5年が経ち、3年目くらいまでは復興というと暗い写真が多い中で、元気になるような、応援できる写真を評価していましたが、今回は海産物だとか、そこで働く若い方たちが、まさに復興が住宅や道路や構造物だけでなく、産業の方にも行き渡ってきたということが伝わってきました。また、スケッチについては非常にレベルが高くなってきた印象を受け、工事中の重機の音が聞こえてくるような作品、あるいは人々の産業に対する活気や喜びなどの生活が伝わってくるような作品に感動を得ました。

Konomi IKEBE Landscape planner

受賞作品・応募作品の紹介



復興の歩み大賞 フォト

記憶と記録 岩崎 孝

撮影場所：宮城県宮城郡松島町

あれから三年が過ぎた松島湾です。この写真は、月明りに照らされた松島湾ですが、今までフォトコンへは投稿出来なかった写真です。拡大をして見ると、小さな島の向こうに沢山の重機が写っております。三年も経つのに、工事はまだ続いておりました。月明りの風景写真に重機は必要ありません。この光景は私の記憶に残し、何年か先に、この重機が無くなった頃に、あの時の記録としてアップするつもりでした…。

〔審査員からのコメント〕

記憶とは私たちの心にさまざまなイメージとして残されていくものです。それをなんらかの「かたち」として留めていくものが「写真」です。そしてそれらは「記録」として積み重なり、私たちの歴史を形成します。美しすぎる風景にズシリとした重みを感じられるのは作者だけではないでしょう。抑制の効いたトーンの中に見える光は、祈りや希望を表現し、私たちに深い思索を誘います。〔大西 みつぐ〕



復興の歩み大賞 スケッチ

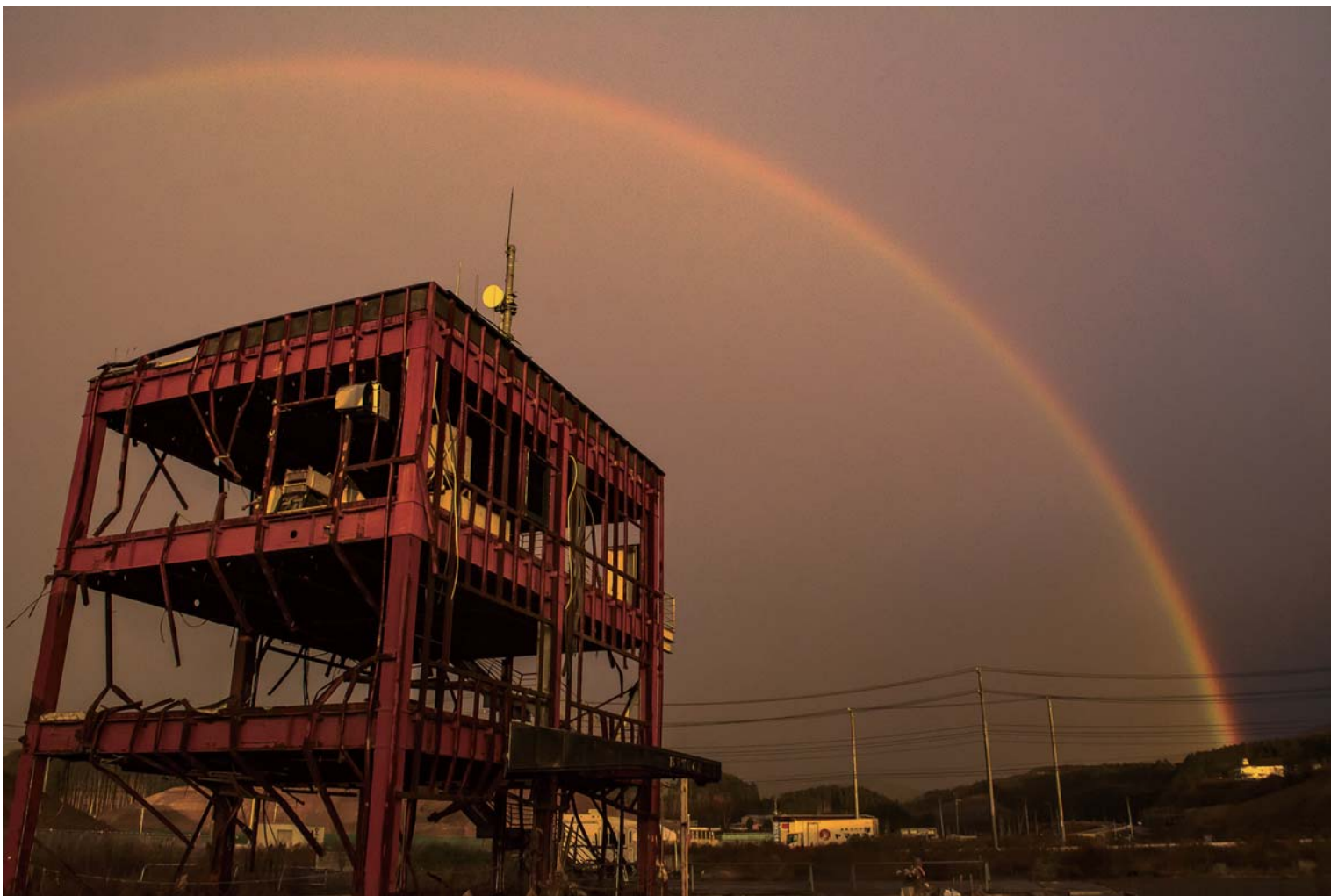
復興に流れる白滝 ～大槌風景～ 鈴木 宣人

描いた場所：岩手県上閉伊郡大槌町

大槌町のメインストリートを車で走っていると突然、奇妙な台地が出現した。上の方では重機が山を切り崩している。その土がまるで白い滝のように下の方へ流れ落ちていた。この土が新しい宅地を生み出しているのだろう。この絵は、復興途中の街へのエールの意味を込めて、一瞬異様に感じた風景を大きな朝日で照らしてみた。

〔審査員からのコメント〕

復興の進む被災地の造成地の周囲の自然地と対照的な重機を含む無機質な風景をシュールに捉えつつも、落ちる土を白滝の如く捉え、朝日の中で働く人々、被災地への思いが伝わる圧巻の作品です。 [池邊 このみ]



復興の歩み賞（大西 みつぐ 選）

虹色の橋かかる 遠藤 正弘

撮影場所：宮城県本吉郡南三陸町

寒くなった朝に日の出を撮ろうとして駄目でしたが、その帰りにたまたま通りかかると、元南三陸町防災庁舎に虹の橋がかかる光景を目の前に発見しました。何か防災庁舎から訴えるものがあると思いました。
刻々と新しい町に変貌し続けている南三陸町は未来に向けて、元防災庁舎から語り掛けていると思いました。

【審査員からのコメント】

虹の向こうになにがあるのかという「ファンタジー」もありますが、この虹は鎮魂でもあり、会いたい人を心に結びつける不思議な力を持っているのではないのでしょうか。元防災庁舎の毅然とした佇まいと美しい虹が一体となり、また色合いもきれいに統一され、印象的な一枚になりました。ローアングルでの撮影と構図が見事です。 [大西 みつぐ]



復興の歩み賞（千葉学選）

休日 太田 信子

撮影場所：岩手県陸前高田市

被災地陸前高田市の休日です。この日はブルドーザーもお休みです。
見上れば青空に白い雲。早く復興されることを願います。

〔審査員からのコメント〕

瓦礫の撤去や大規模な造成工事を推し進める何基もの重機、こうした風景は、被災地においてはもはや日常の一部になってしまっているのでしょう。その現実はやるせないですが、この作品は工事が行われていない休日の重機を人に見立ててユーモラスに描いています。そこから滲み出る重機への労いの気持は、復興への前向きな姿勢を彷彿とさせ、素敵だと思いました。〔千葉学〕



復興の歩み賞（なかだ えり 選）

僕らが頑張る 柏館 健

撮影場所：福島県いわき市

いわき市の漁業はまだ試験操業の段階で大変厳しい状況にあります。ただ市内にある水産高校はマグロ漁を海外での実習で行っております。これはいわき市漁業の復活や明日を背負う子供達の未来のためにも明るいニュースです。マグロの水揚げを笑顔で見る生徒たちに希望を見た思いです。

【審査員からのコメント】

大きなマグロに純粋に驚き喜んでいる笑顔が、とても清々しい作品です。原発事故の影響で今は自粛を余儀なくされている福島の水産業。未来につなげるという大きな役割を、若き高校生たちが担ってくれていることに心打たれます。不安や悩みも忘れるこのような瞬間が増え、日常を取り戻す日が来ることを願っています。 【なかだ えり】



復興の歩み賞（池邊 このみ 選）

命の道に血が通う 大谷 桂太

撮影場所：岩手県大船渡市

三陸沿岸道の三陸、吉浜両 IC を結ぶ吉浜道路が昨年平成 27 年 11 月、
開通した。峠越えの難所解消に至り、産業経済や救急、災害時対応など、
各方面で気仙の「動脈」としての存在感を強めている。日没後に行き
交う車列の光。まるで血が通っているかのように映った。

【審査員からのコメント】

雪明りにてらされた新しい道を行く車の列、そこに気仙の「動脈」とし
ての存在感を、強く脈打つ動脈という形でコメントを付した美しい作品
です。新しい気仙の血流として大きく活躍して欲しいという作者や復興
を願う人々の期待が込められていることがひしひしと伝わってきて感動
させられました。〔池邊 このみ 〕



復興の歩み賞（UR都市機構選）

鳥居の先に見える景色 久保 安加莉

描いた場所：宮城県石巻市

帰省する度に、ここからの景色を見に来ていた。震災から5年経ち、談笑しながら景色を眺める人達を見かけ、本当に少しずつだが前に確実に進んでいるのだと感じた。また、夕日を浴びる鳥居は、とても神秘的で、これからの復興の歩みを見守っているようにも思い、制作した。

UR都市機構の職員投票により最多得票を獲得した作品です。



入賞

復興の彼方に

本田 宗磨 撮影場所：岩手県陸前高田市

背番号2番（2歳）の僕の目には、震災の復興現場はどのように映ったのかな？いつか元気な街ができるはずだと思っているよね。



入賞

復興

～一筋の光をその手で掴んで～

浅野 健仁 描いた場所：宮城県本吉郡南三陸町

復興の兆しと言われた三陸産若布。その復活のため、瓦礫と化した浜辺で必死に親となるめかぶを探し続け、提供した故郷の漁師たち。千年に一度と言われた津波。その千年に一度の大役を果たした僕の生まれ育った浜の人々を誇りに思います。五年経ち活気づき始めた浜の暮らしと、その漁師の生きる様と逞しさを描いてみました。



入賞

一日だけの鯉のぼり

佐々木 均 撮影場所：宮城県東松島市

震災後東松島市大曲地区で行われている「青いコイのぼり」のイベントの1コマです。地元の若者が中心となり全国から集められた1日だけのコイのぼり。これからも続けてもらいたいイベントです。



入賞

津波遺構一田老II

菊池 和弘 描いた場所：岩手県宮古市

大きな建物は「たろう観光ホテル」として営業していたものですが、防潮堤を越流した津波に被災。震災遺構第1号として保存整備され一般公開の道を歩み始めた。画面右側に高台移転に伴う取付道路と新築住宅の画を重ねる構図となった。



入賞

仮設へのペインティング

高木 志津夫 撮影場所：福島県双葉郡楢葉町

楢葉町の仮設の「楢葉ならではの商店街」と云う所へ子供たちが絵や文字を描いてる所です。いまは避難解除地区になっているのでどの程度戻っているのか。子供が安心して勉強や外で遊べるようになる事を願うばかりです。



入賞

早期の復興を願う

有田 勉 撮影場所：岩手県宮古市

3.11 鎮魂の祈りと復興への願いをこめての夢灯り。



入賞

女川駅の灯り

程島 萌々那 描いた場所：宮城県牡鹿郡女川町

震災後に女川駅の近くに住む友達にメッセージを送ると、1枚の女川駅の写真が送られてきました。女川駅はめちゃくちゃな状態でいて、私は震災のひどさを痛感しました。大学で本州にきてからまた地元が震災地域の子と仲良くなり、たまたま女川駅の写真をみました。そこには以前に見た女川駅ではありませんでした。



入賞

山田の花火大会

佐藤 満 撮影場所：岩手県下閉伊郡山田町

山田町復興の狼煙。



入賞

仲間。

林 沙耶 撮影場所：宮城県牡鹿郡女川町

あなたは1人じゃない。困ったときはお互い様と助け合える人がある。あなたを想う人がある。みんなで少しずつ、前に進もう。



入賞

笑顔が戻った公園

三田村 奈保 描いた場所：福島県西白河郡西郷村

震災後、公園で遊ぶ子供達がほとんどいなくなりましたが、震災から5年がたった今は、たくさんの子供たちの元気な声や、楽しそうに笑顔で遊んでいるところをよく公園で見ることができるようになりました。



入賞

いつかまた

田村 瑠士 描いた場所：岩手県陸前高田市

ぼくは、きせきの一本松の本物は見たことないけど、絵本で読んでみました。地しんで松のなか間がたくさんいなくなってとてもかなしくなっていました。いつかまた、たくさんのなか間とこの場所を緑でいっぱいにして、すんでいる人たちをしあわせにしたいと思います。



入賞

いつかきっと…

鈴木 緑 撮影場所：岩手県大船渡市

大船渡の姉の家に滞在した今年の夏。「海で泳ぎたい」と娘が言うものの、近隣の海水浴場はまだどこもオープンしていません。海の側では当たり前と思っていた『海水浴場』というものが、大勢の人の手で綺麗に、安全に、快適に管理され、オープンしているのだと初めて知った娘。改めて震災の大きさを知ると共に、更なる復興へ思いを馳せます。「大船渡の海は、こんなに美しいのだから、きっと近い将来、また賑やかな海水浴場ができるよね」



入賞

希望

宇野 彩音 撮影場所: 福島県いわき市

どうか、見失わないで。
あなたたちの気持ち全てを、私は解ることができないけれど。それはとても悔しくて、悲しいけれど。いつでも願ってます。また会いに来ます。大好きです。



入賞

陸前高田市の街作り その3 うごく七夕

植松 晴岳 撮影場所: 岩手県陸前高田市

陸前高田市の伝統のお祭りである「うごく七夕」が復活しました。嵩上工事が進む中、各地区で飾り立てられた山車が嵩上地区を練り歩きました。



入賞

復興工事 真最中

藤島 純七 撮影場所: 宮城県本吉郡南三陸町

津波により、甚大な被害を受けた南三陸町。トラックが次々と往来し、復興工事は、真最中です。南三陸町の「防災庁舎」は保存が決めりましたが、周辺はどんどん変わってきています。今後も変化する姿を撮影したいと思います。

応募作品

岩 手



岩手県下閉伊郡山田町



岩手県大船渡市



岩手県宮古市



岩手県下閉伊郡山田町



岩手県宮古市



岩手県下閉伊郡岩泉町



岩手県陸前高田市



岩手県大船渡市



岩手県上閉伊郡大槌町



岩手県陸前高田市



岩手県宮古市



岩手県宮古市



岩手県下閉伊郡普代村



岩手県大船渡市



岩手県上閉伊郡大槌町



岩手県陸前高田市



岩手県上閉伊郡大槌町



岩手県釜石市



岩手県釜石市



岩手県宮古市



岩手県下閉伊郡普代村



岩手県陸前高田市



岩手県下閉伊郡山田町



岩手県久慈市



岩手県大船渡市



岩手県下閉伊郡山田町



岩手県宮古市



岩手県上閉伊郡大槌町



岩手県宮古市



岩手県宮古市

宮 城



岩手県陸前高田市



岩手県一関市



岩手県陸前高田市



岩手県大船渡市



岩手県陸前高田市



宮城県気仙沼市



宮城県気仙沼市



宮城県塩竈市



宮城県仙台市



宮城県気仙沼市



宮城県仙台市



宮城県宮城郡七ヶ浜町



宮城県岩沼市



宮城県石巻市



宮城県東松島市



宮城県石巻市



宮城県本吉郡南三陸町



宮城県仙台市



宮城県宮城郡松島町



宮城県石巻市



宮城県本吉郡南三陸町



宮城県本吉郡南三陸町



宮城県石巻市



宮城県気仙沼市



宮城県本吉郡南三陸町



宮城県本吉郡南三陸町



宮城県宮城郡松島町



宮城県石巻市



宮城県気仙沼市



宮城県本吉郡南三陸町



宮城県石巻市



宮城県塩竈市



宮城県東松島市



宮城県気仙沼市



宮城県牡鹿郡女川町



宮城県気仙沼市



宮城県仙台市



宮城県気仙沼市



宮城県石巻市



宮城県亶理郡亶理町



福島県いわき市



福島県岩瀬郡天栄村



福島県会津若松市



福島県福島市



福島県白河市



福島県いわき市



福島県いわき市



福島県福島市



福島県いわき市



福島県福島市



福島県双葉郡浪江町



福島県相馬市



宮城県亶理郡山元町



宮城県石巻市



宮城県本吉郡南三陸町



宮城県東松島市



宮城県気仙沼市



宮城県仙台市



福島県いわき市



福島県いわき市



福島県



福島県福島市



福島県郡山市



福島県岩瀬郡鏡石町



福島県耶麻郡北塩原村



福島県南相馬市



福島県西白河郡西郷村



福島県南相馬市



長野県上田市



長野県



栃木県さくら市



三重県四日市市



審査の風景



■ 大西 みつぐ 氏



■ 復興の歩み大賞
フォト

〔 記憶と記録 〕

大西みつぐ 旅行へ行って普通にみかける風景にも見えますが、非常にしっかりした方向性があります。美しいトーンですが、その裏腹に恐さ、悲惨さを秘めています。しかし、一縷の望みのように水面が光っていて、決して暗く閉ざされていないということを強く主張しているようです。



なかだえり この暗い紺色の映像の中から、5年の悲しみから立ちあがろうという全てを感じ取れるような良い作品です。
池邊このみ 重機が写る松島湾というのは、地元の方としては違った思いがあって、非常に気持ちのこもった美しい作品です。



■ なかだ えり 氏



■ 復興の歩み大賞
スケッチ

〔 復興に流れる白濁
～大槌風景～ 〕

大西みつぐ 震災は全く今まで味わったことのない非日常だったわけで、人間が抱えるスケール感というのは非常に大事な物差しになりますので、こういうものの見方、風景のつかまえ方は大事だと思います。
千葉学 独特な色調も含めて、まず目を引いた良い作品です。全く別の世界で、この地球上



■ 千葉 学 氏

のものではない雰囲気になっていることも含めて、いい絵だと思いました。
なかだえり 異様に感じる風景というのは、人間の力技を使わないと復興できないという力強さ、太陽と働く現場を入れることで、明るい兆しを感じる作品です。
池邊このみ 自分たちの今まで住んできたところとは全く違う風景が作り出されようとしています、それを前向きに捉えて、自分自身へのエールも含めて捉えているところがすばらしいです。



■ 池邊 このみ 氏



■ 復興の歩み賞
大西みつぐ 選

〔 虹色の橋かかる 〕

大西みつぐ 虹を捉えるというのは、簡単そうに見えて、難しいのですが、建物とのコントラストを際立たせるような構図をしっかりと捉えている美しい作品です。また、復興の一つの希望を虹で象徴しているところが巧みです。



千葉学 構図が古典的な気もしたのですが、虹がかかる空にしては見たことのない色で、独特の雰囲気を出しています。廃墟になった庁舎と虹の対比にも、未来への希望を感じます。



■ 復興の歩み賞
千葉学 選

〔 休日 〕

千葉学 まさに重機があちこちでひと休みしているかのような風景で、あれだけの広大な造成地に点在している構図が面白いと思いました。トラクターの色彩も際立っていて、重機が何となく人格を持っているようにも見え、とても興味深く思えました。
池邊このみ 重機はいろいろな面で復興を感じさせますが、住民の方にとっては、重機が動いていないときは、やや静けさを取り戻しているということも大切なと感じました。



■ 復興の歩み賞
なかだえり 選

〔 僕らが頑張る 〕

大西みつぐ 練習船での水揚げを撮っているのですが、それを真ん中に入れて、単なる水揚げの風景だけでなく、それを見守る男たちの願いも含めて、画面にしっかりと伝えている作品です。

なかだえり 水揚げのシーンは、海に対して恐怖があったと思いますが、それを水産高校の若者たちがすごく楽しそうに大漁を喜んでいる。海に向き合い、前向きに復興していこうという若者たちのエネルギーをすごく感じました。



■ 復興の歩み賞
池邊このみ 選

〔 命の道に血が通う 〕

池邊このみ 大船渡の中に道路が開通して峠越えの難所解消に至ったということで、まさに地元の方の気持ち、動脈に血が通うが如く、道路ができて、地域が生き返っていく様子を表していました。

フォト & スケッチ展の実施につきまして、応募者の皆様及びご協力いただいた皆様に、深くお礼申し上げます。

<http://www.ur-net.go.jp/saigai/>

企画・発行 独立行政法人都市再生機構 技術・コスト管理部 都市再生設計チーム
震災復興支援室 企画チーム
〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー

制作 株式会社URリンケージ 都市・居住本部 企画設計部

2017年 3月発行

※本誌の写真および内容を無断で複写・転載することを禁じます。